

奈良県には建造物や遺跡など多くの文化遺産が残されており、県内ではこれまでに3件の世界遺産が登録されています。そして現在、4件目の世界遺産登録を目指しています。

世界遺産の制度とは？

1972年、世界の貴重な文化遺産や自然遺産を保護し、将来へ伝えていくために世界遺産条約が定められました。

「世界遺産」とは、ユネスコの世界遺産条約に基づいて「世界遺産リスト」に記載されている、人類の歴史が生み出した文化遺産、地球の生成や動植物の進化を示す自然遺産などの資産のことです。国家や民族、宗教などの枠組みを超え、人類全体で過去から受け継いできたものを破壊や損傷から保護・保全し、未来に引き継ぐことが目的です。

日本では現在、文化遺産が20件、自然遺産が5件登録されています。

世界遺産に登録されるには

「世界遺産リスト」に記載されるためには、人類全体にとって現代だけでなく未来の世代にとっても共感・共有できる傑出した価値（**顕著な普遍的価値**）があることをはじめ、それを証明する要素や範囲が過不足なく揃っていること（**完全性**）、資産の文化的価値が真実かつ信用に値するものであること（**真実性**）、そして資産を守り伝えるための法令や体制が整っていること（**保存管理計画**）など、さまざまな条件があり、これらを満たしていることがユネスコの世界遺産委員会で認められなければなりません。

「飛鳥・藤原」

詳しくは4・5ページへ！

592年

300年頃

紀元前400年頃

飛鳥時代

古墳時代

弥生時代

縄文時代

法隆寺地域の仏教建造物



法隆寺西院伽藍 (法隆寺提供)



法起寺三重塔 (法隆寺提供)



法隆寺東院夢殿 (法隆寺提供)

今年、登録30周年！

1993年に日本で初めて「世界遺産リスト」に記載されました。法隆寺の47棟と、法起寺の1棟の計48棟の木造建造物で構成されます。西院の金堂や五重塔など、現存する世界最古とされる8世紀以前の11棟の建物がよく知られています。その他にも1300年に及ぶさまざまな時代の建物が数多くあり、日本独特の仏教建築の発展を知ることができます。

また、6世紀半ばに日本に伝来した仏教を広く普及させようとした聖徳太子の活動と、その後の太子に対する信仰が、今も受け継がれていることも高く評価されました。

1993年には、ほかに姫路城、白神山地、屋久島が「世界遺産リスト」に記載されました。

世界遺産
30
法隆寺

ことなら ぶんかざい
古都奈良の文化財

今年、
登録25周年!



東大寺(東大寺提供)



興福寺(興福寺提供)



元興寺(元興寺提供)



薬師寺(薬師寺、奈良県ビジターズビューロー提供)



唐招提寺(唐招提寺提供)



春日大社(桑原英文撮影。春日大社提供)



平城宮跡復原朱雀門(文化庁提供)

1998年に「世界遺産リスト」に記載されました。奈良時代の日本の首都・平城京の中核部であった平城宮跡、東大寺・興福寺・元興寺・薬師寺・唐招提寺の仏教寺院と春日大社、その神域として守られた春日山原始林で構成されます。

古代東アジアとの文化交流によって花開いた寺社の建造物や、伽藍配置が当時のままの姿を残しています。

さらに、構成資産の寺社で現代も受け継がれている宗教儀礼や伝統行事が、奈良の人びとに季節の風物詩として根付いていることも、世界遺産の価値として評価されています。



現代

1185年

794年

710年

平安時代

奈良時代

きいさんち れいじょう さんけいみち
紀伊山地の霊場と参詣道

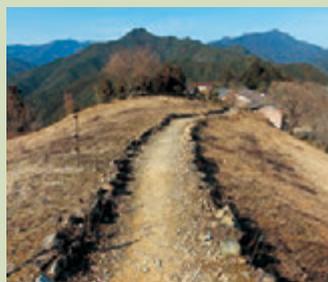
来年、
登録20周年!



大峰山寺本堂(大峰山寺提供)



大峯奥駈道



熊野参詣道小辺路、十津川村果無集落

奈良県、三重県、和歌山県の三県で推薦書を提出し、2004年に「世界遺産リスト」に記載されました。吉野・大峯、熊野三山、高野山の霊場と、それらを結ぶ参詣道で構成されます。県内には修験道の道場である寺社、山岳修行の場である「大峯奥駈道」、高野と熊野を結ぶ「熊野参詣道小辺路」があります。

標高1,000m以上の険しい山々に連なる修行の道と行場だけでなく、紀伊山地で成立した独特な信仰と、自然環境の共存が、日本で初めて文化的景観として認められました。

文化的景観とは、自然と人間の営みが長い時間をかけて形成した景観のことです。



紀伊山地の霊場と参詣道

飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群を世界遺産に！



「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」（以下「飛鳥・藤原」）は2007年に「世界遺産暫定リスト」に記載され、県内で4件目の世界文化遺産として2026年の登録を目指しています。

「飛鳥・藤原」は6世紀末から8世紀初頭にかけて、中国・朝鮮半島との交流により取り入れられた最新の建築・土木技術や律令（法律）などの知識に基づいて、中央集権体制を採用した国づくりが行われたことを示しています。また、「飛鳥・藤原」の宮殿・官衙（役所）跡、墳墓、仏教寺院跡など、22の遺跡の変遷によって、古代宮都の形成を示すことができる東アジア唯一の証拠です。

これらの遺跡のうち、古代日本の中心地におかれた飛鳥宮跡と藤原宮跡の2つの宮殿遺跡が中核となる構成資産です。藤原宮跡で採用された宮殿構造や計画的な都市設計は、その後の平城京、平安京にも大きな影響を与えました。

「飛鳥」の地から目指していた国づくりが「藤原」の地で完成し、「日本」の始まりとして国が形づくられていきました。



宮殿・官衙跡(8資産)

「飛鳥・藤原」以前の宮殿は天皇の代わりごとに場所を変えていましたが、飛鳥宮に遷ってからは同じ場所に宮殿が定着するようになりました。発掘された建物の配置などから、天皇の住まいと政治・儀式を行う場が一体となった宮殿ということがわかります。

飛鳥宮跡周辺には宮殿に付属する庭園跡である飛鳥京跡苑池や、日本で初めて造られた水時計台が設置された飛鳥水落遺跡などがあります。

いずれも中央集権体制の確立に向けて積極的に外来の技術を取り入れつつ、従来の文化との融合を図ったことが示されています。

大和三山に護られるように囲まれた藤原宮跡は、古代中国の都市計画を模範とした碁盤目状に区画された都城の中央に位置しており、大極殿を中心に官衙が立ち並ぶ、中央集権体制の確立を表す遺跡です。

飛鳥の宮都では官衙が宮殿外に分散していましたが、藤原の地に都を遷す際に宮殿内に集約されました。



あすか きゅう 飛鳥宮跡



さか ふね いし 酒船石遺跡



あすか きゅう あと えん ち 飛鳥京跡苑池



あすか みず おち 飛鳥水落遺跡



ふじ わら きゅう ふじ わら きゅう す ざく おお し 藤原宮跡・藤原京朱雀大路跡



やまと さん さん かぐ うね び みみ たち 大和三山(左から香具山・畝傍山・耳成山)



墳墓(7資産)

有力者の墳墓は、「飛鳥・藤原」以前の前方後円墳から方墳へと形状が変化し、さらに中央集権体制の整備にともない天皇の権威を示す八角墳が創り出されました。

皇族や貴族の墳墓では、石室内に描かれた四神や十二支像の壁画で有名なキトラ古墳や、女子群像や星宿図の壁画で知られる高松塚古墳などの円墳が見られます。やがて火葬の導入が進み、墳墓は終焉を迎えます。



しょうぶいけ
菖蒲池古墳



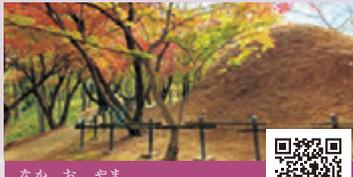
いしぶたい
石舞台古墳



けんごしづか
牽牛子塚古墳



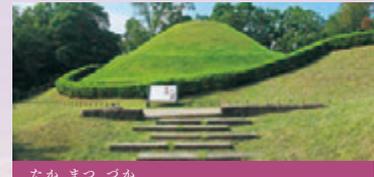
てんむじとうてんのうりやう
天武・持統天皇陵古墳



なかみやま
中尾山古墳



キトラ古墳



たかまつづか
高松塚古墳

寺院跡(7資産)

日本初の本格的な伽藍を備えた寺院である飛鳥寺は、仏教の伝来とともに国づくりの基礎となる最新の建築・土木技術や知識を取り入れたことを示しています。その後も、有力氏族による寺院造営が推し進められ、山田寺、橘寺、檜隈寺などの氏寺が建てられました。

飛鳥から藤原へと宮殿が遷る頃には、国家鎮護のために藤原京の都市設計に組み込まれた大官大寺や本薬師寺などの国家寺院が建てられました。



あすか であ
飛鳥寺跡



たちばな であ
橘寺跡(橘寺境内)



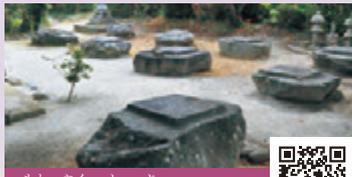
かわら であ
川原寺跡



ひのくま であ
檜隈寺跡



やまだ であ
山田寺跡



もとやくし
本薬師寺跡



だいかんだいし
大官大寺跡



今後のイベント

～奈良県の文化資産の価値を感じてみませんか?～

ACCU奈良文化遺産セミナー2023

時 令和6年1月13日(土) 13時～15時

所 県橿原文化会館(橿原市)

文化遺産の大切さを考える機会として、「時代と文化の転換期—活力の飛鳥から洗練の奈良へ—」をテーマにセミナーを開催します。要申込。

問 (公財)ユネスコ・アジア文化センター
文化遺産保護協力事務所(ACCU奈良)
☎0743-69-5010



「飛鳥・藤原」奈良講演会

時 令和6年1月20日(土) 13時～16時

所 橿原市立かしはら万葉ホール(橿原市)

「飛鳥・藤原」の世界遺産登録に向け、世界遺産と地域のあり方や未来について考えることをテーマとした講演会を開催します。要申込。

問 世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進
協議会事務局(県世界遺産室 内)
☎0742-27-2054



詳しくは後日HPにて掲載します▶